

# 講演 1

## 東日本大震災被災地の現状

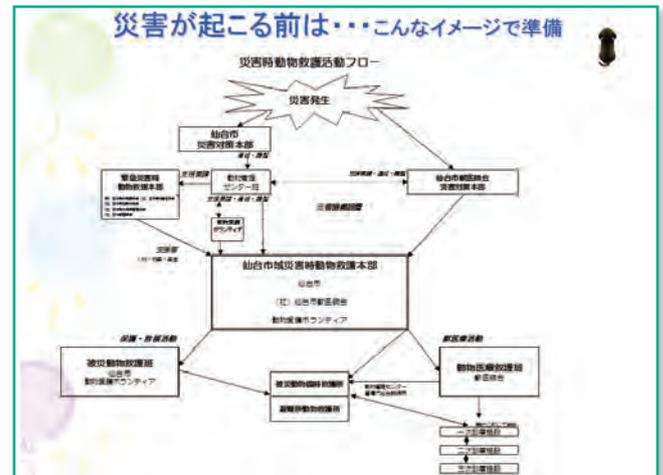
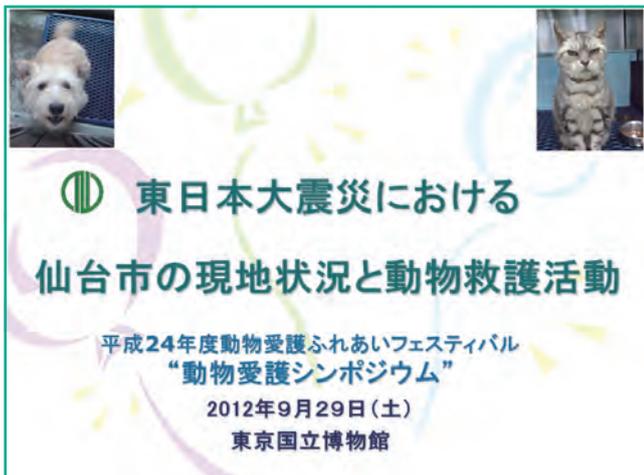
～災害が起きても一緒に暮らせるように～

亀田由香利 (仙台市動物管理センター 主幹)

1979年4月、仙台市役所に獣医師として採用される。同年5月、仙台市食肉衛生検査所勤務。1983年5月、仙台市経済局農政課勤務。1992年4月、仙台市八木山動物公園勤務。1995年4月、仙台市衛生研究所勤務。1999年4月、仙台市食肉衛生検査所勤務。2003年4月、仙台市八木山動物公園勤務。2005年4月、仙台市動物管理センター勤務。



司会: 続きまして、亀田由香利様のお話です。亀田様は、仙台市動物管理センターの主幹をしていらっしゃいます。仙台市役所に獣医師として採用されてから、食肉衛生検査所や経済局農政課勤務を経て、八木山動物公園などでも勤務されました。本日は、「東日本大震災における仙台市の現地状況と動物救護活動」というテーマでお話いただきます。それでは、亀田様、よろしくお願いいたします。



皆様こんにちは。只今ご紹介に預りました仙台市動物管理センターの亀田由香利と申します。私のようなものがこのような機会をいただきまして本当に感謝いたしております。また、全国の皆様方には震災直後より今でも本当にたくさんの温かいエールとご支援をいただきまして、この場をお借りして御礼を申し上げたいと思います。ありがとうございます。3月11日あの日から1年半が経ちました。今でも、市内だけでも約1万世帯の仮設住宅で本当に不自由な生活を送られています。今回の震災の経験と教訓が1つでも多くの命を助ける糧になることを願いつつお話をしたいと思います。私に与えられたテーマは「東日本大震災における仙台市の現地状況と動物救護活動」という事ですが、東日本大震災が起こる前には行政としていったいどう準備をしていたのか。どう震災で何が起きたのか。行政としていったい何が出来たのか。今回の反省を踏まえたこれからの準備や心構えをお話させていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

実は仙台市は30年以内に90%以上の確率で震度6以上の宮城県沖地震が起こるといわれておりました。そのため様々な準備をしてきました。その中で阪神淡路、中越地震の時の反省を踏まえ、市としてはペットを同行して避難することが前提ということで地域防災計画の中にも触れられておりましたので、こんなイメージで避難所設営が必要なレベルになった時には緊急災害時動物救護本部に支援要請しながら、獣医師会とボランティアと共に動物救護所を設置するという形はできていました。







巨大な波が防風林をなぎ倒し、若林区藤田の集落に襲い掛かる

この地区は閑静な新興住宅街と農村地帯が混在している場所で、3月11日の津波が押し寄せている写真です。まさに津波が防風林をなぎ倒して集落に襲いかかっている様子が職員の手で撮られていました。



若林区荒浜付近から名取市閉上方面を見る

少し南側の名取市のほうに向かって見ている状態です。



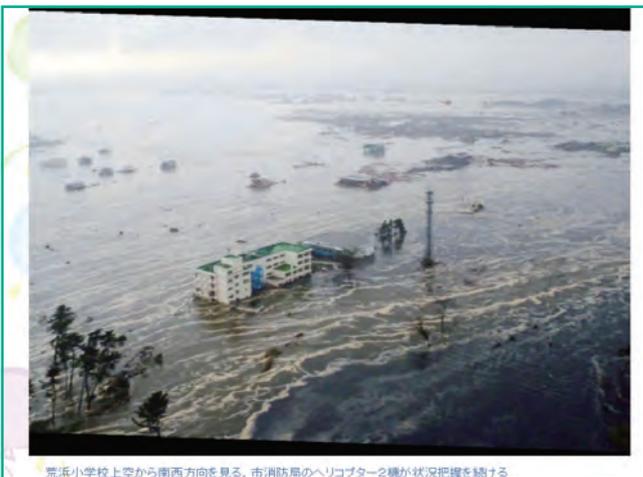
用水路をさかのぼる津波(若林区藤田付近)

同じ場所ですが、用水路を遡っている様子がわかります。



若林区三本塚付近

ここが北側の三本塚という場所です。



荒浜小学校上空から南西方向を見る。市消防局のヘリコプターが状況把握を繰り返す

先程お話した、海水浴場が近くにある荒浜という新興住宅地の避難場所の荒浜小学校がここです。消防のヘリが捜索しているのがわかるかと思えます。



津波により孤立した荒浜小学校では、生徒や教師、地域住民が屋上で助けを待った

先程の荒浜小学校ですが、津波により一面が水没してしまい孤島状態になりました。避難した住民249名が屋上で助けを待っているという状態です。ここに犬猫を同行した方がたくさんいたという話をきいています。



午後4時0分

もう少し北側の南蒲生浄化センターの屋上から取った写真です。職員は全員無事だったときいております。



消防団に誘導され、一本のロープにつかまって荒浜小学校から避難する人々

これが荒浜小学校に避難した人達がロープに捕まって避難する様子です。



荒浜に到着した救援のヘリコプター

この日の5時、荒浜小学校の近くにヘリがようやく到着したという状況です。



中野小学校。児童、教職員、付近の住民など650人が避難した(3月12日)

もう一つの避難所だった中野小学校というところの状態です。ここには640名ほどの住民が避難していたときいております。



極限状況で救助を待っていた被災者からの「ありがとう」「お願いします」という一言は、重くも重みのある言葉として隊員たちの胸に染み込んだ(写真は荒浜小学校屋上からの救助)

同じ荒浜小学校ですが、5時半くらいからヘリコプターが屋上からの救援活動を開始したところです。ホバリングしながらホイストを下して、人を確保して救助するという形を取りました。最終的に救助を完了したのが翌朝の5時頃ときいております。この状態ですので犬猫を救助することはできませんでした。



中野小学校周辺

その周辺の瓦礫の状況です。



若林区荒浜地区。海岸付近から内陸部を望んだところ、中央右寄りの白い建物が荒浜小学校、海岸の松は、津波によりほとんどなぎ倒されている(3月18日)

これは中央の白い建物が先程の荒浜小学校で、かつてどういう状態だったかというのがこちらの写真になります。松林が生い茂っていましたが全てなぎ倒されているのがよくわかります。



海水により冠水した農地を検査する消防隊(3月20日)

冠水した農地を捜索する様子です。



海岸公園冒険広場(若林区井土 3月18日)、広場内の展望台に避難した5人の命が救われた

ここがその近くの冒険広場というところです。この写真のようだったものが全てこのようになり、ここで5名ほど広場の展望台に避難の方がいらっかったということですが、その方はなんとか難を逃れたというお話です。



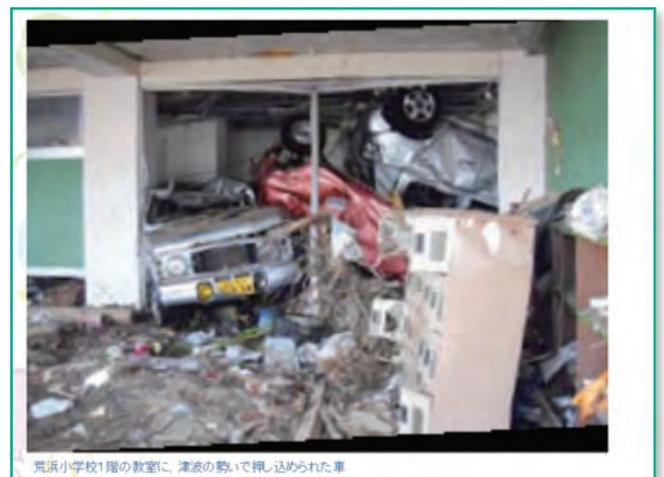
がれきに覆われた宮城野区中野の住宅街

先程の小学校の近く、中野の周辺です。瓦礫の状態がわかると思います。



若林区藤塚地区、右側に青山橋が壊れている(3月18日)

そして、ここは藤塚というところで、ここが閉上ですが、全て無くなっている様子がわかると思います。



荒浜小学校1階の教室に、津波の勢いで押し込められた車

これが荒浜小学校の1階の教室ですが、津波により車が押し籠められている様子です。



消防団が救助活動をしているところです。



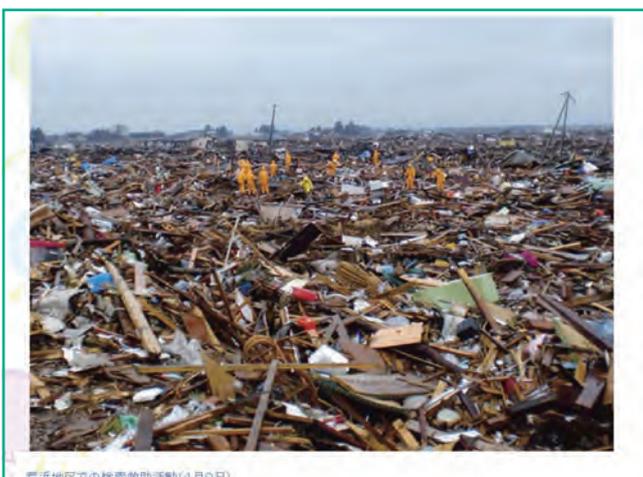
あまり注目されていませんが、沿岸部だけでなくあちらこちらで様々な被害がありました。これは丘陵地帯の宅地被害の状況です。



災害救助犬です。3月15日くらいから市内の3頭の犬が救助に入りました。この仔達の治療に当たった獣医師によるとパッドが相当痛んだ状態で治療が大変だったときいております。



これは山の方の県民の森というところの道路の破損状態です。市内あちこち亀裂が入ったり陥没したりという状況がありました。



これが1ヶ月経った時の状態です。



これはガソリン不足でたくさんの車が行列をつくっている様子です。緊急車両や工事車両の通行が妨げられて非常に混乱したときいております。



これは一部の販売可能なスーパーが時間制限、入場制限をしながら売り出した時の状況です。

**動物收容能力**

	センター	動物病院	計
犬 🐕	59	99	158
猫 🐈	25	93	118
計	84	192	276

今回の震災においては、巨大津波により全てが飲み込まれて埋まってしまうという被害が甚大でありましたので、おそらく今までの地震のような状況ではなく、人と一緒に生活していた動物の命も一瞬にして奪われたのではないかと思います。ですから相当数の動物が保護され飼い主から一時預かるという状況ではありませんでした。獣医師会とセンターの收容可能数で、譲渡によって回転をよくしていけば対応可能と判断しました。

**仙台市被災動物救護対策本部設置**

3/25 臨時本部      5/10 本部設置

<b>構成</b>	(社) 仙台市獣医師会	<b>構成</b>	同
	NPO法人エーキューブ ハートtoハート	<b>事務局</b>	(社) 仙台市獣医師会
	仙台市動物管理センター	<b>その他</b>	幹事・監事
<b>事務局</b>	仙台市動物管理センター	<b>事業</b>	①被災動物医療
<b>活動</b>	①動物病院診療情報		②被災動物保護
	②動物病院での一時預かりと診療		③避難動物支援
	③避難所への支援物資配布		④被災動物救護
	④被災動物の一時預かり		⑤その他
	⑤被災動物の保護・返還・譲渡		

以上、津波の状況、震災被害の状況でしたが、この中でも命からがら動物と共に避難して来た人がたくさんいました。その中で獣医師会とボランティアが出来る限りの動物の救護をしようという事で立ち上げたのが仙台市被災動物救護対策本部です。岩手に比べると設置するのが遅れましたが、この日までそれぞれのやれることをやってきて3月25日に臨時本部を立ち上げ、5月10日に本部の設置にこぎつきました。動物管理センターが事務局だったものを獣医師会の方に持ってきてしっかりした要綱をつくったという違いがあります。

**震災後の動物救護状況(平成23年12月31日現在)**

飼い主不明動物及び引取動物はセンター対応、飼い主からの一時預かりについては、獣医師会と明確に役割分担した。

**動物病院における被災動物一時預かり実績(3/12~9/10)**

31病院

	受入頭数	延べ日数
犬 🐕	142	
猫 🐈	58	
その他	1	
計	201	8,756

先程岩手県の獣医師会長も仰っていた通り、飼い主不明の動物、引取動物についてはセンター対応、飼い主から一時預かりは獣医師会対応と明確に役割分担をしまして、新たなシェルターをつくることなく動物を收容しました。動物病院では9月までに31の病院が201頭、延べ8,756日の一時預かりをしました。



### 動物病院における被災動物支援加療状況 (6/11～9/10)



	加療頭数
犬	649
猫	234
計	883

\* 別に5/11～6/10に632頭実施  
総計 1,515頭



その間の加療頭数は9月までで1,515頭に上りました。

### 動物管理センターの対応状況 (平成23年3月11日～平成24年3月31日)

単位:頭

	保護	引取	返還	譲渡
センター	351	63	206	181
その他	43	0	26	0
計	394	63	232	181

	保護	引取	返還	譲渡
センター	1,037	125	10	379
その他	8	0	2	0
計	1,045	125	12	379

動物管理センターの対応状況ですが、3月11日から翌年の年度末までセンターに収容された動物はこの表の通り、保護が1,439頭、引き取りが188頭、その内飼い主の元に戻れたのは244頭、新たな飼い主の元に送り出したのは560頭におよびました。

### 失踪情報受付

単位:頭

	失踪届総数	返還数
失踪犬情報	659	260
失踪猫情報	510	106
計	1,169	366

失踪情報です。失踪情報が寄せられたのは1,169件、その内366件は飼い主が判明し、飼い主の元に戻れました。

### 避難所に動物を同行している飼い主支援

\* 避難所にペットと共に避難している飼い主の支援については、震災直後から市・獣医師会・ボランティア独自で近隣避難所における同行者の把握・情報交換を行いながら、物資・獣医療・相談受付などを行った。

- ペットを同行している飼い主実態調査、必要物資の把握・運搬・提供、要望及び上げ・仲介
- 避難所が集約されていくに従って問題が表面化してきた

#### 様々なペット受け入れ対応の形

- 地域防災計画の避難所マニュアルの中にはペットスペースを設けることとある⇒原則室外⇒現状とそぐわない⇒町内会ごとの準備レベルによる差・運営委員の動物意識の差、学校長の裁量の差

では、避難所にペットと共に避難している飼い主への支援はどういう事をして来たのかという事をお話します。獣医師会とボランティアと避難所の方に入り込んで実態の聞き取りをして、必要物資の配布、健康チェック、治療、予防、相談くみ上げを行ってきました。避難所設置マニュアルの中にはペットのスペースを設けることとありましたが原則室外となっておりまして、最大288の避難所が設置されましたが、避難所によって実に様々な形の受け入れで、日々変化していったというのが現状です。



これは避難所の3月16日の状態ですが、このような状態で、ここでは、ペットが中に入れるような状況ではありませんでした。



## 最終的な避難所同行の実態

ペットを同行している避難所  
(4月30日)

	計	犬	猫
避難所	11箇所		
飼育者数	36人(16組)		
ペット数	38頭	37頭	1頭

日々変化しているのでなかなか統計を取るのが難しかったのですが、4月30日というのは仮設住宅に移る直前ですがその時の状況です。避難所が11箇所、38頭のペットが同行していました。

## 車中生活の方にテント設置

車中生活の方はロータリークラブに要請して、先程岩手のお話でもしましたシェルターボックスをいただきました。犬と共に生活できるように学校の校庭にテントを立てて、個別テントという形で生活できるようになり非常に喜んでいただきました。

## 避難所におけるペットの取り扱い

(4月30日)

人とペットの生活形態	避難所数
ペット同伴を許可	4
外でテント暮らし	2
ペット専用係留場設置	2
ペットのみ車中	2
人とペットが車中生活	3

その時のペットの取り扱いがどうなっていたかを表にしました。ペットが家族と共に教室に入れてもらっている場所もありました。体育館の倉庫で家族と共に暮らしているペットもいました。その他、専用の係留施設や車中生活等様々でありました。

## 仮設住宅で動物と共に暮らす飼い主支援

- \* 応急プレハブ仮設住宅では、ペット飼養が可能となった。
- \* 応急プレハブ仮設住宅入居説明会において、ペットと共に暮らす予定の飼い主に対し、周辺配慮の必要性を訴え、**ペット飼育届**を提出頂いた方に様々な支援が受けられることを伝えた。
- \* 殆どの方が「飼育届」を提出し、**飼育実態が把握でき**、獣医師会・ボランティア協働での様々な支援が可能となった。
- \* 但し、民間借り上げ住宅のペット飼養者把握及び支援は、申出があったものに留まった。

この後仮設住宅に入って行きました。仙台市では、応急プレハブ仮設住宅ではペット飼養が可能となりました。そのために仮設入居説明会で、ペット飼育届を提出していただければ様々な支援が受けられることを伝えて、実態が把握できるようになりました。同時にその時点で仮設におけるマナー啓発をすることが出来ました。

## 様々なペット同行避難の形

仙台市黒崎市民センター  
仙台市若林体育館  
仙台市七郷市民センター  
サンピア

このように車中だったり外のテントに入れられたりしていました。

## 仮設住宅でペットを飼育する皆様へ

### 仮設住宅ペット飼育届と飼い主ルール

仮設住宅におけるペット飼育届

1. 犬、猫は必ずリードを付けて、散歩時には必ず犬・猫の排泄物を片付け、周囲に迷惑を及ぼさないようにしてください。

2. 犬、猫は必ずリードを付けて、散歩時には必ず犬・猫の排泄物を片付け、周囲に迷惑を及ぼさないようにしてください。

3. 犬、猫は必ずリードを付けて、散歩時には必ず犬・猫の排泄物を片付け、周囲に迷惑を及ぼさないようにしてください。

4. 犬、猫は必ずリードを付けて、散歩時には必ず犬・猫の排泄物を片付け、周囲に迷惑を及ぼさないようにしてください。

どういふもので仮設届を出していただいたか、啓発していったかというのがこの用紙になります。

応急プレハブ仮設住宅において飼養されているペット  
(平成24年6月11日現在)

仮設住宅数	16箇所 (全18箇所)
ペット数	242頭 犬168 猫68 その他6

\* 応急仮設住宅への入居状況 (H24.5.25現在)

プレハブ住宅: 1,438戸、公務員住宅: 775戸、民間賃貸住宅: 8,083戸



仮設住宅において飼養されているペットの数です。6月11日現在、応急プレハブ仮設住宅のみですが16箇所です。242頭のペットが飼われていました。その他に民間賃貸住宅等が8000戸くらいありましたが、この実態は明らかではありませんでした。



応急プレハブ仮設住宅の状況です。このように狭く、近隣と密接した住宅の中で、原則室内飼いで飼っていただいていた。



その中でどういふ飼主支援をしてきたかという写真です。もともと、外で飼っている方もたくさんいらっしゃいましたが、室内飼育の指導をし、ケージ等をお渡ししてきました。色々な話を聴いて物資の支援をしたり、マナー啓発の中で一緒に糞拾いをしたり、しつけ教室を開いたりしました。



被災した小学校の子供達がたくさんいました。その子供達に、少しでも笑顔を取り戻して欲しい思いから、犬を連れてふれあい教室をしました。



### 被災動物の譲渡 平成23年3月12日～平成24年3月31日

#### 犬の譲渡 181頭(子20)譲渡

譲渡会譲渡

\* 講習受講・ふれあいチェックリスト、希望票提出の上、譲渡決定。

回	開催月日	参加者数	譲渡頭数	備考
1	平成23年4月23日(土)	74組 168名	14頭	
2	平成23年5月21日(土)	34組 81名	17頭	
3	平成23年7月23日(土)	44組 168名	24頭	
4	平成23年8月21日(日)	23組 50名	12頭	
5	平成23年9月25日(日)	28組 55名	12頭	福島3
6	平成23年11月6日(日)	25組 51名	12頭	福島5
7	平成23年12月7日(水)	9組 15名	6頭	子犬
8	平成23年12月18日(日)	22組 47名	11頭	福島1
9	平成24年1月22日(日)	3組 7名	2頭	福島1
10	平成24年3月11日(日)	21組 41名	11頭	福島4
計	10回	282組 693名	121頭	

今回の私達の活動の中で非常に有効だったのが、譲渡事業です。従来から成犬譲渡をボランティアと協働で進めてきたことが、活動を円滑に進めることが出来た大きな要因だったと思います。1ヶ月間は飼い主探しに没頭していましたが、その後は月に1回は必ず譲渡会を開いて新しい家族にもらっていただくという活動を続けました。譲渡会に関しては1年間で10回開きました。121頭の犬を譲渡会で新しい家族のもとに送り出しました。

#### 犬の団体譲渡

\* 譲渡者を探すための活動を行う団体に譲渡

NO.	団体名	譲渡頭数	備考
1	香川県獣医師会	8頭	
2	NPO法人J-HANBS	6頭	子犬
3	東北動物看護学院	4頭	子犬
計	3団体	18頭	

#### 犬の随時譲渡

①一度譲渡会に出たもので、センターにおいて対面の上、マッチング及びチェックリストで譲渡可能と判定の上、譲渡。  
②飼い主不明で保護した方が希望する場合、一定期間飼い主を探した後、譲渡。

その他、全国の団体に里親探しのための譲渡をしました。その他に随時譲渡というシステムもつくりました。全国からご支援を頂き、南は沖縄から北は岩手の方まで、非常にたくさんの方が注目して下さい、譲渡を進めることができました。



#### 猫の譲渡 379頭(子249)譲渡

#### 譲渡会での猫の譲渡

\* 9月から実施、一定時間内に自由に来所、対面の上、マッチングとチェックリストにより譲渡。

回	開催月日	譲渡頭数	備考
1	平成23年9月25日(日)	14頭	子10
2	平成23年11月6日(日)	15頭	子12
3	平成23年12月18日(日)	5頭	
4	平成24年1月22日(日)	3頭	子2
5	平成24年3月11日(日)	1頭	
計	5回	38頭	子24

猫の譲渡もしました。譲渡会は9月から行いましたが、5回で38頭譲渡しました。

#### 猫の団体譲渡

\* 譲渡者を探すための活動を行う団体に譲渡

NO.	団体名	譲渡頭数	備考
1	LOVE & PEACE Prey	23頭	子4
2	ちよだニャンとなる会	37頭	子31
3	いのちの会仙台	45頭	子26
4	わんにゃん仲良しクラブ	2頭	子2
5	大町ペットクリニック	14頭	子14
6	ダクダク動物病院	4頭	子4
7	アセス動物病院	3頭	子3
8	大岡動物病院	3頭	子3
9	アウル動物病院	2頭	子2
10	アン動物病院	2頭	子2
計	10団体	135頭	子91

#### 猫の随時譲渡

①基本は随時譲渡。センターにおいて対面の上、マッチング及びチェックリストで譲渡可能と判定の上、譲渡。  
②飼い主不明で保護した方が希望する場合、一定期間飼い主を探した後、譲渡。

団体は10団体で135頭、その他随時譲渡を進めました。



譲渡がうまくいった大きな要因として、平常から行ってきたボランティアとの協働の形というのがあります。ボランティアさんのご協力のおかげだと思います。今回の震災を受けて、このボランティアに全国の方が加わった形で、散歩をしたり、トリミングやシャンプーをしたりという事をしていただきました。

## 被災犬譲渡会



これが譲渡会の様子です。1頭1頭ボランティアさんがハンドリングしながら説明をしています。

## 全国からの支援物資・義援金・ボランティア 被災動物の預かりや新たな飼い主等 様々な形での沢山のご支援 心から感謝します！



今までお話しして来たことが私達が行ってきた活動ですが、全国からホールいっぱいになった支援物資や義援金、被災動物の一時預かりをしていただいたことが非常に大きな力になりました。改めて心から感謝いたします。

助けるためにわが身を守ることを考えて下さい。そして同行避難だと思います。誰よりも時間と手間がかかることを前提に、早め早めに行動できるように準備を進めていただきたいと思います。今回の震災でもそういう心構えの中で、ペットがいたから早め早めに逃げて助かったという方もたくさんいらっしゃいました。そのためには、防災訓練の中に同行避難訓練を是非入れていただきたいという事。ペット用の持ち出し袋の内容の検討、準備も必要だと思います。

また、同行避難できるようにするためには、町内会単位での話し合いで、学校教室をペットを同行して来た人のために開放してもらう事が良いのではないかと思います。それが不可能であれば、ロータリークラブを通して先程お見せしたようなシェルターボックスを要請していただいて、個別テントを設置するというのが現実的だと思います。そして同行避難した時に何より大事なことは、日ごろから地域に愛される飼い主と動物であることだと思います。人にとって精神的な支えであります動物たちの存在が、災害を乗り越えて前に進むための力になるという事を全ての方に理解していただく、という大きな務めが私達の役割だと強く考えております。本日は御清聴ありがとうございました。

## ご清聴ありがとうございました！



### 【まとめ…どのような災害にも共通と考えられる準備事項】

#### 自分の命を守る

- 飼い主と家族が助からなければ、わが子を守れません！  
～まずはその準備から

#### 同行避難

- もう一人の家族と一緒に避難できるように今から準備。  
～誰よりも時間がかかり大変なことを前提に  
～**万全の準備**と**イメージトレーニング**が必要です  
～防災訓練の中にペット同行避難を！  
～**ペット用非常持ち出し袋**・**テント**の準備

#### ペットを受け入れてもらうために

- 町内会単位でペット同行避難を理解し、準備を進めるような地道な活動
- 学校教室を開放し、ペットを同行した人の場所を確保。
- 人と動物が家族単位でともに過ごせる**個別テント**の設置～ロータリークラブとの提携による**シェルターボックス**の活用とその設置場所の確保
- 何より、マナーを守って、**日ごろから地域に愛される存在に！**



まとめです。今回の震災の経験と反省を踏まえた災害に備えての飼い主の心構えと準備のお話をしたいと思います。犬猫は飼い主に全てを依存しております。まずはわが仔を ↗